

ナシマルカイガラムシ情報第1号

平成23年5月17日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

ナシを加害するナシマルカイガラムシの防除適期は
おおむね昨年並みの6月3日～11日です。

1 ナシマルカイガラムシの防除適期

ナシマルカイガラムシの雌成虫、卵、2齢幼虫は殻で覆われ薬液がかかりにくいため、その時期に薬剤散布しても効果はほとんど期待できません(図1)。薬剤の防除効果が高いのは、ふ化後に殻からはい出してくる歩行幼虫(図1)です。特に第1世代歩行幼虫の発生時期は揃っており、葉もあまり繁茂せず、散布ムラが生じにくいので、第1世代歩行幼虫発生ピーク時期は最も重要な防除時期です。

第1世代歩行幼虫の発生ピーク時期は3月から5月の気温により変動しますので、毎年、有効積算温度による防除適期予測に基づいて薬剤散布することが重要です。

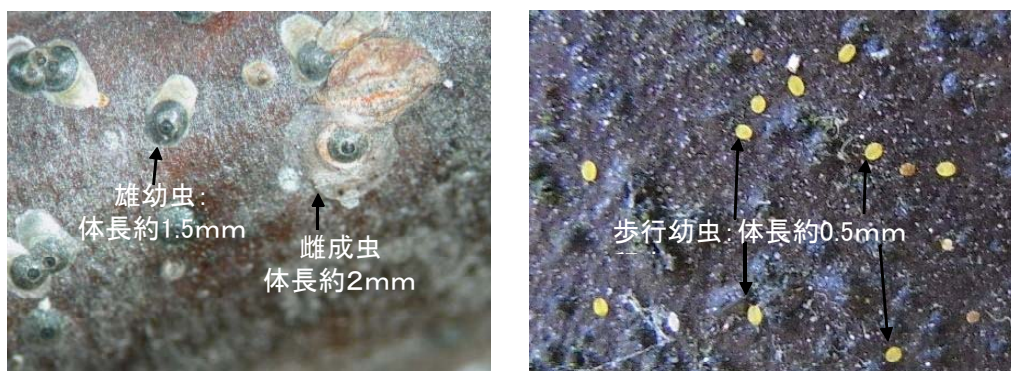


図1 ナシマルカイガラムシの雄幼虫、雌成虫、歩行幼虫

2 防除適期予測

有効積算温度を利用したナシマルカイガラムシ第1世代歩行幼虫の発生ピーク予測日は、おおむね昨年並みの6月3日から6月11日です(表1)。

表1 ナシマルカイガラムシの第1世代歩行幼虫発生ピーク予測日

	愛西	東海	南知多	名古屋	豊田	岡崎	蒲郡	新城	豊橋	伊良湖
本年予測	6/7	6/3	6/9	6/3	6/5	6/7	6/5	6/11	6/8	6/9
(昨年)	6/8	6/4	6/9	6/5	6/4	6/7	6/7	6/10	6/6	6/8
昨年差	1日早い	1日早い	なし	2日早い	1日遅	なし	2日早い	1日遅い	2日遅い	1日遅い

注) 本年予測月日は、5月11日までの気温については本年実測値を、それ以降は平年値(豊橋、新城は昨年値)を用いて計算。昨年については、昨年気温の実測値を用いて計算。

3 防除

- (1) 第1世代歩行幼虫発生ピーク予測日を参考に薬剤防除を実施しましょう。
- (2) 雌成虫が重なり合って寄生している場合は、薬液が歩行幼虫の虫体にかかりにくくなりますので、雌成虫を削り取ってから薬剤散布しましょう。
- (3) 散布ムラがないように十分な薬液量を丁寧に散布しましょう。
- (4) アプロード水和剤は遅効性ですが、残効性に優れているため、発生ピーク予測日より2～3日早めに散布すると効果的です。